



2025年1月31日
東日本旅客鉄道株式会社

JR 東京総合病院が新しく生まれ変わります ～3月24日新病棟「A棟」開業、外来棟「B棟」リニューアル～

○JR 東京総合病院は、JR 東日本グループの企業立病院として、グループ社員や家族の健康を支えるとともに、地域の皆さまへ高度で良質な医療サービスを提供し、当社の鉄道を中心とした生活ソリューション事業との連携を行うことで、すべての人の「心豊かな生活」の実現と新たな価値創造に取り組んでいます。

○これまで病棟等の建替え工事を進めておりましたが、この度、新病棟「A棟」が3月24日に開業します。新病棟には「患者支援センター」を新設し、ワンストップで患者さまの療養生活をサポートするほか、災害や感染症対策を強化し、快適に療養いただける環境を整備します。

○同時に外来棟「B棟」をリニューアルし、手術支援ロボット「hinotori™」(ヒノトリ)を導入するなど、急性期を中心とした診療機能を強化し、地域医療の充実に貢献していきます。

1. 新しく生まれ変わる「JR 東京総合病院」

これまで工事を進めていた新病棟「A棟」が、3月24日(月)に開業し、同時に外来棟「B棟」もリニューアルします。これを機に、建替えのコンセプトである「CURE:医療の質向上」、「CARE:患者さまファースト」、「COMMUNITY:地域とともに」の3つの「C」について、一層レベルアップを図っていきます。

なお現病棟は今後解体し、跡地には緑豊かな中庭を設置することで、ご利用のみなさまの憩いの場とします。(2028年春頃全面オープン予定)

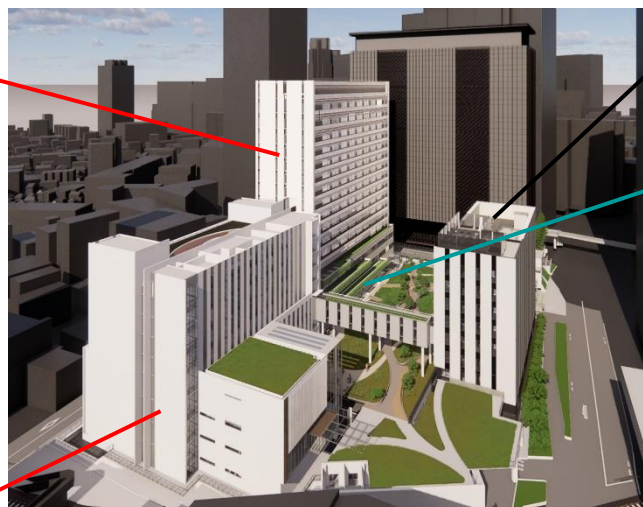
今回開業

新病棟「A棟」 (2025年3月24日開業)

- 半個室化した4床室を新設
- 陰圧病室や無菌個室の増設
- 患者支援センターの設置
- 救急外来の移転・拡充
- 免震構造を採用
- 東京の木・多摩産材を使用

外来棟「B棟」 (2025年3月24日リニューアル)

- 消化管検査センターの移転
- 手術支援ロボットの導入



「e棟」 (2024年4月開業済)

中庭 (2028年春頃完成予定)

- 緑豊かな中庭を設置
- 災害時には中庭下の駐車場をトリアージスペースとして活用

JR東京総合病院 完成イメージ

※掲載CGは計画段階のものであり、今後変更となる場合があります。 ©2023, Takenaka Corporation

2. 新病棟「A棟」について

(1) ワンストップでサポートする「患者支援センター」の新設

- ・新病棟「A棟」の1階に、医療・介護・福祉に関する様々な相談に対応する患者支援センターを新設します。看護師や医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)が、治療と生活を切れ目なくワンストップでサポートします。

(2) 快適性を追求したぬくもりの空間

- ・多床室は全て4床室とします。うち96床を半個室とし、プライバシーや快適性を高めます。
- ・個室に加えて多床室にも、各病室内にトイレを設置します。
- ・各病室に、自然光を活かした採光や部屋ごとの自然換気を導入し、快適な療養環境を整備します。
- ・1階の総合受付を中心に、東京の木・多摩産材を使用し、ぬくもりのある空間とします。

【一般個室】



【半個室化した4床室】



【総合受付】



※掲載CGは計画段階のものであり、今後変更となる場合があります。©2023, Takenaka Corporation

(3) 感染症対応や重症向け医療の強化

- ・陰圧病室[※]や無菌個室を増設し、感染症への対応を強化します。
※陰圧病室…細菌が外部に流出しないように、気圧を下げた病室
- ・救急外来を外来棟「B棟」から移転し、放射線検査処置スペースを拡大、更なる患者さまの受け入れが可能となります。
- ・外来棟「B棟」と同様、免震構造を採用し、地震発生時の被害を抑えます。

(4) 病院スタッフが働きやすい病院

- ・ゆったりくつろげる休憩スペースや、カフェのような社員食堂等、スタッフ用設備を充実させます。
- ・これまで分散していた病院スタッフの執務スペースを集約し、コミュニケーションを取りやすい環境を整備します。

(5) 新病棟「A棟」の概要

- ・S造(鉄骨造)、延床面積 約 30,000 m²、地上 16 階、地下 2 階、病床数 401 床

3. 外来棟「B棟」リニューアルについて

- ・新病棟「A棟」の開業と同時に、消化管検査センターを外来棟「B棟」に移転し、リニューアルオープンします。
- ・手術支援ロボット「hinotoriTM」(ヒノトリ)を導入し、最新の医療を提供していきます。

※「hinotoriTM」は(株)メディカロイドの登録商標になります。

